

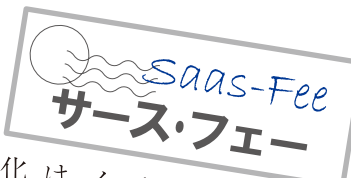
クラムザツハ（オーストリア）、サース・フェー（スイス）へ 市として初めての公式訪問

平成19年11月に姉妹都市提携を再提携したオーストリア共和国クラムザツハ町へ、このたび市として初めて公式訪問をしました。訪問団は市長を団長に、市議会議員5人を含む12人。6月25日から7月3日までの9日間、クラムザツハのほか以前から交流のあるスイス連邦サース・フェー村へも足を伸ばしました。



クラムザツハとの交流は、旧豊科町時代から続いています。旧豊科町は「あづみ野ガラス工房」を開設した直後の昭和61年から、ヨーロッパ唯一の国立ガラス専門学校があるクラムザツハと交流をはじめ、平成5年に姉妹都市提携を結びました。平成19年、安曇野市として提携を再提携、今年日本とオーストリアの修交140周年となることから、市として初めての訪問団を送ることとなりました。

今回は市議会議員を中心に訪問団を結成。役場や公共施設などを視察しました。役場では議員交流の場が設けられ、同じ分野を担当する議員同士が机を囲み、それぞれの制度や取り組みなどについて意見を交換しました。また、修交140周年の関連イベントとして、訪問中の6月30日を「安曇野Day」として催しが行われました。この日は、同じくクラムザツハを訪れていた安曇野クラムザツハ友好会とオーストリア共和国駐劄特命全権大使の田中映男大使が合流。歓迎式典と地元楽団によるパレードが行われ、現地メディアも多数取材に訪れていました。



山岳観光が縁で旧穂高町時代から交流のあるサース・フェー。同村は50年以上前からガソリン車の乗り入れを禁止し、スイスの観光都市としては初めてゴミ袋を有料化、建築物についても厳しく規制するなど、環境と景観の保護に関して先進的な取り組みを行っています。

今回の訪問では、世界で最も高い場所にある回転レストラン（標高3500m）の下水処理・給水システムを視察。このほか、村内を電動のミニトレインで巡り、環境への取り組みや地元の人々の暮らしについて説明を受けました。



①「安曇野Day」のチロル楽団によるパレード。②民謡コンサートの締めは日本でもおなじみの「ソーラン節」。③クラムザツハ役場前での歓迎式典。写真右から平林市長、田中大使、シュテーター町長、チロル州議会ヨハネ・ラウヒ議員。④議員交流でメモを取りながら熱心に質問する市議。⑤「クラムザツハ・豊科友好広場」の記念モニュメント。オーストリアと日本の地形をかたどっている。左下：パレードを待つクラムザツハの子どもたち。



DATA：クラムザツハ

オーストリア共和国チロル州にある人口約4700人の町。インスブルックから50kmほどの場所で、近隣には“オーストリアで最も美しい村”といわれるアルプバツハや“ガラスの街”として知られるラッテンベルグなどがある。旧豊科町との交流をきっかけに日本人でも長期滞在できるよう、現地での銀行口座開設や宿泊場所の手配など日本語でのサポート体制にも力を入れている。

DATA：サース・フェー

スイス連邦ヴァリス州、標高1800mにある人口約1700人の村。“アルプスの真珠”と呼ばれ年間30万人の観光客が訪れる。ガソリン車の乗り入れを1951年から禁止するなど、環境保護に対する意識がとてもし高い。スノーボードのメッカとして知られ、オリンピック選手の強化合宿や国際大会も行われる。



①村の入り口。アルプスの山並みが観光客を迎える。②電気自動車も台数が少ないため若い観光客はリヤカーを借りて自らの荷物を運ぶ。③ごみ収集センター。リサイクルできるものは住民が自らセンターに運び分別。④村内の見どころを巡る電動ミニトレイン「アラリーノ」。⑤サース・フェーでは「建物の正面3分の1以上は木材で作る」、「屋根は切り妻屋根」という規制を設け自然と調和した景観を守る。⑥標高3500mのアラン山で説明を受ける訪問団一行。

